

ここいろ kokoiro

情報誌
2024.5

伊丹市立男女共同参画センター「ここいろ」は
性別にかわりなく、個性と能力が発揮できる
社会づくりの拠点施設です。
誰もが気軽に訪れ、学び、交流できる、
地域に開かれた男女共同参画センターを
目指しています。

[https://
www.itami-
kokoiro.jp](https://www.itami-kokoiro.jp)

社会の変化を 読み解く

私は大学で「メディアとジェンダー」という講義を担当しています。この授業では、男性や女性が、メディアでどのように表現されてきたのか、メディアとどのように関わってきたのかを考察します。その際に重視している

のが、歴史的な変化を読み解くことです。

例をあげてみると、70年代生まれの私が子どもだった頃、子ども番組は、男の子向けはウルトラマンや戦隊モノなどの「戦う」作品、女の子向けは魔法や恋愛が主流でした。女の子向けの「戦う」作品が登場したのは90年代のことで、「セーラームーン」や「プリキュア」が大きな人気を集めました。これらの作品では、女の子が「戦う」姿だけでなく、同性の仲間とともに一つのことをやり遂げる姿が描かれます。これは、かつての「女に友情は成立しない」「女同士は協働できない」といった偏見をくつがえすもので、女の子の良いロールモデルになったのではないのでしょうか。

変化を読み解くことがなぜ必要かという、どのような事柄であれ、現状の客観的な分析が必要だからなのはもちろんですが、特に今、男性や女性をめぐる事柄が急激に変化しているからでもあります。

その一方で、私たちは、「男/女らしさ」や「男/女ならば～すべき」といったジェンダーについての考え方を「当たり前」とか「自然なもの」と捉えがちです。講義では、「男/女」に求められることが歴史的に変化してきたこと、現在も変わり続けていることを伝えています。そして、現状に不満を感じるならば、変えていけることも知ってほしいと考えています。

求められる 男女平等

残念ながら、現在の社会では男女平等はいまだ達成されていません。2018年に、複数の大学の医学部が入試で女子を不利に扱ってきたことが発覚しました。これに限らず、女性に対する不利な扱いは、社会の中

にまだまだ多く残っているのではないのでしょうか。女性を社会の中心から排除する一方で、これまで女性が主に担ってきた家事・育児・介護などは、無償で行うのが当たり前とされるか、低賃金に抑えられてきました。男女平等とは、見えない障壁がなくなり、だれもが性別にとらわれず、本当の意味で自由な選択ができることだと考えます。

以前、女性で「初の」仕事についた若い女性にインタビューをしたことがあります。彼女は上司から「絶対失敗し

「変化を読み解き、

アップデートする」

守 もり
如子 な お こ さん

ちゃいけないよ。失敗したら、やっぱり女性はダメだと言われるから」とプレッシャーをかけられたそうです。このようなことを男性も言われるものではないでしょうか？これまで、男性はさまざまな場面で重要な仕事を積極的に与えられ、経験と失敗を積み重ねることで、育ててもらってきました。女性にも同じチャンスが必要です。

男女平等の一步として、まずは、女性を新たな場や重要な仕事に登用していくことが必要とされています。2023年に発表された「ジェンダーギャップ指数」では、日本は146か国中125位と大変低い位置にいますが、これは経済分野と政治分野の得点が低いことが大きく影響しています。

政治分野について言えば、各国が候補者の一定割合を女性とすることを定めるクォータ制を導入し、女性の割合を高めてきた一方で、日本では積極的な取り組みを行っていない政党が目立ちます。政策などの策定の場に女性やマイノリティがいないことによって、これまでもさまざまな問題が生じてきました。例えば、災害を事例にすると、阪神淡路大震災や東日本大震災などを経て、これまでの災害救援物資や備蓄用品に、女性が必要とする生理用品や、子育て家庭が必要とするミルク・紙おむつが不備だったことが明らかになりました。これは、男性が中心になって災害対策を進めてきた弊害といえるのではないのでしょうか。政治は、すべての人に関わることを決定していく場なのですから、本来、何よりもダイバーシティ(多様性)が求められるはずです。そのことがもっと意識される必要があるのではないのでしょうか。

「失言」から見える社会

最近、ある男性政治家が、他の女性政治家を「美しい方とは言わない」「おばさん」と言う言葉を使って上から目線で評価して、批判を集めました。この発言の問題は、女性のみならず美しさや若さで評価する視線を向けていることと、発言の端々に、彼女は例外的な存在で、この仕事は自分たち男性のものだというニュアンスがにじみ出ていることです。おそらく、この男性政治家は、女性をこのように扱ってもかまわないとするような、男性だけの空間でこれまで生きてこられたのではないのでしょうか。このような、女性を排除する、男性同士の緊密な関係を、学問の世界では「ホモソーシャルな絆」と呼びます。ただ、よく考えてみると、もしかしたら何年か前にはこの発言はニュースにもならなかったかもしれません。これがニュースになるということは、ホモソーシャルな仲間うちの発言がもはや通用しなくなったこと、そして、社会が女性を排除するような発言を許容しなくなったことを如実に示しているのではないのでしょうか。

その一方で、こういった政治家の「失言」に対する批判は、過剰なポリティカルコレクトネスで、表現の自由の範囲を狭め

ているという声が上がることもあります。しかし、それは逆なのです。これまでは、社会の中心にいる人の「本音の声」だけをみんなが聞かされてきただけであって、差別的な発言を嫌だと思っても声を上げることができない人も未だにいます。本来の「表現の自由」の理念は、少数派の意見も踏まえたいうえで、よりよい社会をつくっていくことにあります。しかし、現状では、このことは達成できていないと言わざるを得ません。インターネット上には、女性を始め、民族的マイノリティや、外国人、性的マイノリティ、障害者などへのバッシングやヘイトスピーチがあふれていますし、差別に反対する声を上げた人を批判したりからかったりする書き込みも良く見られます。これでは自由に意見を述べることはできません。本当に「表現の自由」を保障していくためには、ジェンダー平等とは何か、差別とは何か、表現の自由とは何かを、皆がもっと理解する必要があるでしょう。

メディアの変化と私たち

以前、あるメディア産業のダイバーシティ推進部署のかたが、次のように話されていました。かつての男性記者は、子育ては妻任せが多かったが、若い世代は男性でも子育てをしっかりと担っている人が増えてきた。その中でニュースの着眼点に変化がおきている。例えば、かつては虐待を起こした母親を「母親なのに何をやっているんだ」と責めるような論調が多かったが、近年は、子育ての大変さに寄り添って「なぜ母親に支援の手が届かなかったのか」を問う記事を書く男性記者も少なくない、と。このようなメディアの変化はニュースを受け取る私たちにとっても歓迎できるものです。

その一方で、メディアが表現する女性像や男性像をめぐる批判が相次ぐ「炎上」と呼ばれる現象が起きることも少なくありません。その背景には、これまで批判の声を上げることができなかった人が少しずつ声を上げ始めていることや、男性や女性をめぐる社会の意識が急激に変化していることがあるでしょう。私たちみんなが社会の変化を読み解き、意識をアップデートしていく必要にせまられているのではないのでしょうか。



もり なおこ 守 如子さん

関西大学 社会学部教授

1972年北海道生まれ。

関西大学ではメディア専攻の講義「メディアとジェンダー」などを担当している。共著書に、『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』（法律文化社）、『BLの教科書』（有斐閣）、『【新版】現代文化への社会学—90年代と「いま」を比較する』（北樹出版）など。今年の秋、『基礎ゼミ ジェンダー・スタディーズ』（世界思想社）を出版予定。

守 如子さんには、
5月にセンター主催「こころ ジェンダー講座」でも
登壇して頂きます。ぜひ、ご参加ください。
(講座案内ページ参照)

おすすめ 図書

図書・情報スペースでは、男女共同参画社会をめざすさまざまな活動をサポートする情報を収集し、発信しています。図書貸出は、ひとり3冊・2週間までです。

『ケアしケアされ、生きていく』

2023年・筑摩書房

竹端寛 著



弱者のためのもののように思われるが、私たちの身の回りに溢れるケア。3つの世界から「ケア中心の社会」とは何かを考える。「他人に迷惑をかけてはいけない」と教えられた子どもにとって、自分の声を抑圧し封印する「魂のケア」が欠けている状態という。「ケア中心の社会」に変わることは出来るのか?6月22日に著者の竹端寛さんに登壇頂きます。ぜひ、モヤモヤ一緒に考えましょう。

『生理中です』

2022年・世界文化社

パク・ボラム、ミン・ウネ 著



女性どうしても、どこか話にくい生理の悩みを科学的に正しい知見とコツで解決してくれる一冊。生理に関する共感できるエピソードに加えて、正しいタンポンの使い方、生理痛に効く食べ物やお茶についてもわかりやすいイラストと共にまとめられている。「彼女の生理にどうすればok?」や「男性あるある、生理に関する誤解」といったトピックもあり、男性にも是非読んで欲しい。

『40歳だけど大人になりたい』

2023年・平凡社

王谷晶 著



40歳を過ぎた一人暮らしの個人事業主である著者が「大人になりたい…」と願いながら、日々世の中に行き交うことや自分の来し方行く末に悩んだり咬いたりする軌跡をまとめたエッセイ集。著者自身の体験談や社会に対する考えが軽快な言葉遣いで綴られており、そのユーモア溢れる世界観には読むうちにだんだん引き込まれてしまうだろう。

『がんになった緩和ケア医が語る「残り2年」の生き方、考え方』

2022年・宝島社

関本剛 著



神戸で緩和ケア医として1,000人以上の患者さんを看取ってきた医師であり、妻と2人の子を養う一家の主宰者でもある著者が、43歳という若さでステージ4の肺がんと診断される。「この先、自分はどう生きるべきなのか」と悩みながらも、仕事を続けることを選んだ著者の考え方には今まで関わってきた多くのがん患者さんの存在が強く影響していた。各章末で紹介される先人たちの言葉にも注目して欲しい。

『ボク サッカーやめたい』

2022年・イマジネーション・プラス

神山ますみ 著



子どもの早期教育が盛んになり、習い事も親の悩みの種になっていることがある。無理強いすることは禁物だが、子どもを応援したい気持ちもあり複雑なもの。とうとう「サッカーやめたい!」と打ち明けたボクに、パパとママが続けて返した言葉に皆でびっくり!パパにもママにもボクにも夢があったんだ。やさしい色使い、柔らかいタッチで描かれたクマの家族と一緒に、笑顔になれます。

講座・イベント

レポート

「ここいろミモザの日」2024年3月3日(日)

たくさんの方にご来場いただき、ありがとうございました!



絵本読み聞かせとちびっこ体操



合唱ワークショップ

相談案内

相談予約電話番号 **072-781-5516**

一時保育 1歳～就学前まで(無料)、予約時にお申し出ください。

※詳しくは、センターHPでご確認ください。〔2024年度〕



さまざまな悩みを整理し、自分らしく次の一歩を踏み出すための専門のカウンセラーや弁護士が、あなたと一緒に考えます。相談方法は、面接と電話相談があります。相談は無料、秘密は厳守いたします。

相談事業名	曜日	時間	備考
女性のための悩み電話相談	月曜日 第1日曜日 ※休祝日を除く	10時～14時	直通電話 072-781-5531
女性のためのカウンセリング	第1～第4火曜日 ※祝日を除く (1回50分)	10時～14時	面接・要予約 (一時保育有)
	第2・第4金曜日 (1回50分)	16時～20時	
女性のための法律相談	第4土曜日 ※5・11・12月は第3土曜日 (1回45分)	10時～13時	面接・要予約 (一時保育有)
女性のためのチャレンジ相談	第2木曜日 ※祝日を除く (1回50分)	10時～14時	面接・要予約 (一時保育有)
セクシュアルマイノリティ相談	第1・第3金曜日 ※祝日を除く	15時～18時	直通電話 072-767-1012 メール相談 QRコードから→→→
男性のための悩み電話相談	第1土曜日	15時～18時	直通電話 072-781-5532
ハローワーク伊丹職員による女性と子育て両立のための就労支援相談	偶数月 第4金曜日 奇数月 第2水曜・第4金曜日 (1回50分)	9時～12時	面接・要予約 ※前日 17時まで (お子様同伴可)

★どちらを受けたらよい?このような相談に…

チャレンジ相談

- 起業を考えている
- 在宅ワークを始めた
- ボランティアに興味がある
- 地域活動に参加したい
- シングルマザーの働き方

産業カウンセラー・キャリアコンサルタントの相談員が対応

- 【働き方を見直したい】
- 【働きたいけど何から始めたら?】
- 【再就職したい】
- 【ブランクが長くていろいろ不安】
- 【資格や特技を活かしたい】
- 【一歩踏み出す勇気が欲しい】

[相談無料]

あなたと一緒に考え、情報提供を行います。

就労支援相談

- 子どもが小さいから家の近くで働きたい
- 短時間で自分に合う仕事を探している
- 履歴書や応募書類の準備について相談したい

ハローワーク伊丹マザーズコーナー職員が対応



防災講座



せやろがいおじさん



フードドライブ



バルーンアートに挑戦

ルワンダからの学生レポート



Muraho!



アフリカ東部のルワンダ共和国は、国会議員に占める女性の割合が6割超で世界トップを誇り、ジェンダーギャップ指数2023は12位と高い国です。2023年秋より、ルワンダのPIASSプロテスタント人文社会科学大学へ留学中の神戸市外国語大学3回生の結城花菜さんによる現地の最新レポートを、ぜひご覧ください。



講座案内

「性別に関わりなく、誰もが自分らしく生きられる社会づくりの拠点」施設として、男女共同参画の学習を目的とする講座を実施しています。

申込み・問合せ 伊丹市立男女共同参画センター TEL.072-781-5516

こころ ジェンダー講座

伊丹市は、性別にとらわれず一人ひとりを大切にしているジェンダー平等のまちをめざしています。^(*) 世界経済フォーラムが発表しているランキング「ジェンダーギャップ指数2023」では、146か国中125位と過去最低となった日本。ジェンダー平等の実現には、固定化されたジェンダー・ステレオタイプの解消が不可欠です。一人ひとり「ここ＝個々」が自分の色「いろ」を彩ることのできる拠点施設として名付けられた「こころ」で、身近なことからジェンダー課題について考えてみませんか。

(*第3期伊丹市男女共同参画計画より)

5/11.18.25

(各土曜日)

10:00～12:00

[3回講座]

①	5/11 (土)	災害とジェンダー課題 ～災害を女性の視点から検証する～	正井 礼子さん NPO法人 女性と子ども支援センター ウイメンズネット・こうべ 代表理事
②	5/18 (土)	ジェンダーをめぐる男性の 抱える悩みと生きづらさ	濱田 智崇さん 京都橘大学 総合心理学部准教授
③	5/25 (土)	CMの女性像から考える メディアのジェンダー表現	守 如子さん 関西大学 社会学部教授

対象：テーマに関心のある方30人

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき1回300円、要予約)

申込み：電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

こころカフェ



お茶を飲みながら、一緒に語り合いませんか。
テーマを設けてファシリテーターが進行します。

日時	テーマ	受付開始
5/20(月) 10:30～12:00	「子どもの心をしずめる方法」	4/15(月) 9:00～
7/22(月) 10:30～12:00	「孫との関係」 クラフト工作:夏休みに遊べる折り紙の簡単工作	6/15(土) 9:00～

定員：各回10人

(お子さん連れの参加も可)

参加費：無料

申込み：電話・窓口で受付
(先着順)

ファシリテーター 竹下 郁代さん (CAPスペシャリスト/スター・ペアレンティング ファシリテーター)

こころエンパワメント★カフェ「子どもの権利を守ろう」

【あなたのからだはあなただけのもの】【あなたのきもちもあなただけのもの】
子どもたちに、CAP[子どもへの暴力防止プログラム]を伝える「むこがわCAP」の
石崎和美さんと一緒に、気軽に話し合ってみませんか。お子さん連れの参加も可です。

6/1(土)

13:30～15:00

対象：テーマに関心のある方15人

参加費：無料

申込み：5/1(水)9:00～ 電話・窓口で受付(先着順)



ファシリテーター

むこがわCAP 石崎 和美さん

動いて、感じて、アクションワーク

自立促進講座

不安や緊張、言葉で表せない感情の数々をため込んでいないでしょうか。頭でっかちで、思いつめてしまったり・・・ぐるぐる思考になってしまう時にも有効なアクションワークを体験してみませんか。固くなったところをほぐして、からだを動かすワークショップです。

6/6.20.7/4.18

(隔週木曜日)

10:00～12:00

[4回講座]

対象：テーマに関心のある15人

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき1回300円、要予約)

申込み：5/1(水)9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

講師 川崎 眞美さん

ワークショップデザイナー

6月23日～29日は、男女共同参画週間です。

自分には関係ない??「ケア中心の社会」とは

男女共同参画推進セミナー

「ケア」という言葉から思い浮かぶのは、何でしょうか。「お世話」や「配慮」、「気配り」などと訳されるように、私たちの身の回りには、誰かのケアがあるからこそうまく廻っている場面があります。「ケア中心の社会」とはどんなものか?自分のありのままを大切にする「ケアのある社会」をモヤモヤ一緒に考えてみませんか。

6/22(土)

13:30～15:30

講師 竹端 寛さん

兵庫県立大学 環境人間学部教授

対象：テーマに関心のある方30人

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき300円、要予約)

申込み：5/1(水)9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

ここいろ☆ぱぱサロン 子育てを語ってみよう

男性セミナー

速さや効率が求められる仕事と違うのは、子育ての世界には「正解がない」こと。今まで誰とも話したことのない「パパの子育て」について、思いを語ってみませんか。

7/6(土)

10:00～12:00

進行役 チームパパカフェ

福島 充人さん 濱田 智崇さん

新道 賢一さん

対象：子育て中の男性、プレパパなど15人

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき300円、要予約)

申込み：6/1(土)9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

はじめてのCAPワークショップ ～小学1・2年生対象～

CAP(キャップ)とは、子どもが暴力から自分を守るための人権教育プログラムです。子どもを取り巻く暴力から自分の身を守るためにどう対応するか、寸劇、ディスカッションを交えながら、「自分の大切さ」を教え、一人ひとりが本来持つ力を引き出す(=エンパワメント)プログラムです。

8/4(日)

14:00～15:30

ファシリテーター

NPO法人女性と子どもの

エンパワメント関西 スタッフ

対象：子どもワークショップ小学1・2年生15人、大人ワークショップ20人

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき300円、要予約)

申込み：7/1(月)9:00～ 電話・窓口で受付(先着順)

映画から考えるジェンダー

生き方アップデート講座

映画上映「わたしのお母さん」&トーク

上映作品「わたしのお母さん」 2022年 106分 日本

監督：杉田 真一 主演：井上真央・石田えり

すれ違う二人の感情、葛藤を繊細に描く誰よりも近いのに、

誰よりも遠い母と娘の物語

8/30(金)

18:00～20:10

トーク・進行 田上 時子さん

NPO法人

女性と子どもの

エンパワメント関西 理事長

対象：テーマに関心のある方20人

参加費：無料 自由席(開場17:45～)

申込み：7/16(火)9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

ここいろ市民ネット会議 「ここサークル」 メンバー募集!



伊丹市在住・在勤・在学・市域で活動する個人またはグループで、ジェンダー平等の推進を目指す方であれば、どなたでもメンバーになることが出来ます! 皆様のご参加、お待ちしております。

メンバー登録
こちらから



次回ミーティング 2024年7月7日(日) 10:00～11:30



ここいろ

愛称「ここいろ」は、
一人ひとり（ここ＝個々）が
自分の色（いろ）を彩ることのできる
拠点施設であることを願って、
公募で名付けられました。

伊丹市立
男女共同参画センターは
SDGs を支援しています



目標 5 (ジェンダー)
ジェンダー平等を実現しよう

開館時間

月～土 午前9時～午後9時
日曜日 午前9時～午後5時30分
*第1日曜(5月・11月は第3日曜)のみ開館

休館日

日曜日(左記開館日除く)、祝日
年末年始(12/29～1/3)

アクセス

阪急伊丹駅から徒歩約7分/JR伊丹駅から徒歩約8分
お車でお越しの際は、宮ノ前地区地下駐車場(有料)等をご利用ください。

ホームページ



Instagram



facebook



LINE



伊丹市立男女共同参画センター ここいろ

指定管理者

NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西

〒664-0895 伊丹市宮ノ前2-2-2 伊丹商工プラザ5階

電話：072-781-5516

FAX：072-781-5530

<https://www.itami-kokoiro.jp>